

幹細胞再生医療のこれから

文 長也寸志

text by Yasushi Cho

今まで数回、幹細胞培養上清液についてお話ししましたが、今回は幹細胞再生医療の今後についてお話ししたいと思います。

ここ数年、国内外で体性幹細胞再生医療が施術され、今まで治せなかった難病の治療結果の朗報や、多数疾患の驚愕するほどの素晴らしい治療結果も報告、発表されるようになってきました。

現在世界中を震撼させている新型コロナウイルスの重症患者においても海外だけでなく、国内でも良い治療結果も出てきています。

数年前までは、国内においてもほとんど知られてなかった幹細胞再生医療ですが、この頃チラホラとマスコミやネットなどで、皆様のお耳に入るようになってきたと思います。

そのような新しい概念の医療ですが、治療を受けられた患者様は未だわずかであり、まだまだ一般的治療とは言えないのが現状です。

しかしながら、この素晴らしい未来的医療を施術された患者様皆様が口を

揃えておっしゃるのが「私の少しでも若い時の細胞があれば、もっと治療効果が出るんでしょね!」という言葉です。

はい、実はそうなんです。

残念ながら年老い、病气されて初めて治療を受けられる方がほとんどなのですが、そういう状態の細胞は、たどえ幹細胞といえども健康な時より弱っているのです。若い時、健康な時の幹細胞。それはそれはフレッシュで活発な細胞です。

ここまで書けば、賢い皆様はもうお分かりでしょう!

そうなんです。

これからの幹細胞再生医療で重要なのは、若い時の皆様の細胞のバンクイング保存なのです!

今までのお孫さんへの入学祝い、ランドセルや勉強机だとしたら、これからはお孫さんの細胞バンクイングにしたり、成人式や結婚など人生の節目に細胞バンクイングをしたり、とにかく若い時、健康な時に細胞をバンクイングし、将来もし重大な病気になった時に、その細胞を利用して新しい医療を

効果的に受ける。

そんな世の中になっていきます。もちろん医療はさらに日々進化していきます。

そのバンクイングされた細胞が、活躍する日までさらに。

どうですか皆さん、すぐにでも自分の細胞をバンクイングしなくてはと、思われませんか!?

Profile

医療法人社団 友志会 理事長
1987年3月 福岡歯科大学 卒業
1987年4月 福岡歯科大学病院保存科 入局
1989年6月 長歯科医院 開設
1994年8月 新地八口一歯科診療所 開設
1996年 医療法人社団友志会 設立
2007年8月 翼八口一歯科・内科診療所 開設

